

# 戦後 北谷のあゆみ

戦前の北谷は現在の北谷町から嘉手納町まで広がる行政区画で、主に農業を生業としていました。沖縄戦が終結すると他市町村の人々は收容所から元の居住地へ帰っていましたが、村域のほとんどを米軍に使用されていた北谷村民は1946年10月まで帰村が許されませんでした。この展示は、戦後の收容所生活から帰村、そして復興と発展といった現在までの変化を公文書や写真で紹介する展示となっています。

1945年

6月  
沖縄戦終結



青空教室\*



桑江での配給\*

1946年

10月  
帰村



(歴史公文書) 人口移動二関スル件

1945年10月に收容所からの移動が許可され、人々は元の居住地に帰っていましたが、基地建设が進んでいた北谷村に帰村の許可は下りませんでした。そこで北谷村は現在の沖縄市嘉間良に仮役所を設置し帰還要請を重ね、他の市町村に遅れること1年後ようやく北谷村域の一部へ移動が許可されました。

1948年

1951年

4月 字名改編

(歴史公文書)

字名改編許可申請ノ件  
戦後の地籍調査時の不便を解消するため、字(あざ)を12字から20字に編成し直しますが、新しい字名に対する反発が大きい地域があり、字名が改称されました。

12月 分村

(歴史公文書) 分村の陳情書

嘉手納基地が全面立入禁止となり、村役所への交通の不便を強いられた嘉手納地区の住民から分村の世論が高まりました。

土地所有権証明書交付

沖縄戦で土地登記簿や土地台帳のほとんどが焼失したため、戦後は土地に関する権利関係や現状を把握するのが難しい状況にありました。これを明確にするために、「土地所有権証明書」の交付が始まりました。



戦後初期の謝刈



標準住宅

帰村後も戦前に住んでいた地勢の良い平坦地は軍用地に使用されたため、人々は起伏のある傾斜地への居住を余儀なくされました。

(注) \*は沖縄県公文書館所蔵資料、他は北谷町公文書館所蔵資料



2014年



新庁舎(桑江226番地)は基地返還を見込んだ上で、キャンプレスター基地の中心部に敷地及びアクセス道を米軍と共同使用する形で建設されました。

1998年



北谷フィッシャリーナ



桑江・伊平の区画整理

1997年

美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ



産業振興や雇用の場の確保と地域活性化を目的とした美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ開発が行われ、映画館の開業を皮切りに賑わいのあるまちが形成されました。

1987年



ハンビー地区は、土地区画整理事業の完了した1991年頃から、大規模小売店舗(ハンビータウン)や各種専門店が集積する商業地域として発展しました。1994年に安良波公園が、2001年にアラハビーチが完成しました。

CCZ 認定

北前から美浜までの海浜部は1987年コースタル・コミュニティ・ゾーン(CCZ)の認定を受け、整備がおこなわれました。北谷公園にはサンセットビーチや海邦国体(1987年)の会場となったソフトボール場を始め、陸上競技場や屋内運動場が次々と完成しました。

1974年



建設中の国道道路

復帰記念事業として1973年の若夏国体開催時に国道58号とコザ市(現沖縄市)を結ぶ県道24号(国道道路)が開通しました。これに伴い、上勢頭地区と桑江地域の宅地開発が本格化しました。



北谷村初の公営住宅

1980年

4月 町制施行

北谷町制が施行された日に、当時の島袋雅夫町長(左)と花城可金議長(右)が役場の看板を付け替えました。



『北谷村振興計画書』発行

5月  
本土復帰

1972年

現在の北玉児童館の位置に建設されていた北谷村役所\*



4月 役所庁舎新築

1961年